

—マイクロカテーテル—

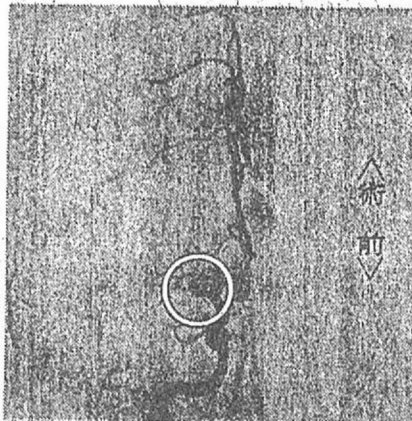
# 脳梗塞治療に威力

脳梗塞(こうこう)は、頭の血管が詰まったり狭くなって血流障害を起こし、卒倒することもある病気だが、この治療にマイクロカテーテルを使う血管内手術が試みられている。脳の血管は細い管を入れ、血栓溶解剤注入などを行う治療だ。発症後、数時間以内に行えば再び血流を確保することができ、後遺症をある程度防ぐことも可能だ。従来の外科手術や内科的治療に比べ新しい療法として注目されている。

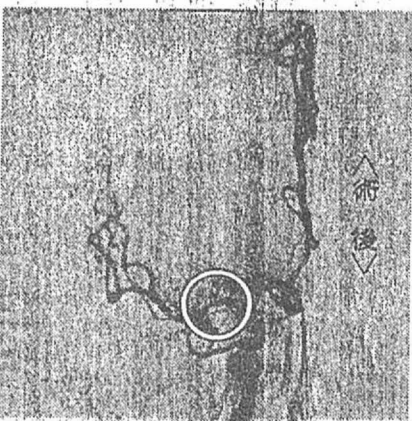
脳梗塞は主に脳塞栓(そくせん)と脳血栓の二つがある。治療としては、詰まった部分に別の血管をつなぐバイパス手術など外科治療がある。札幌医大脳神経外科の大滝雅文助手によると、脳塞栓では詰まった血管の場所や程度によって、手術ができないことも多く、ほとんどの薬を使う内科的治療になるという。

そのため死亡率が高く、命を取り留めても植物状態や半身まひといった後遺症を残すことも少なくない。マイクロカテーテル手術は発症後、できるだけ早く、血管を再開通させるのが目的。後遺症などを減らすだけ抑える新しい治療だ。

専任が一人以下のカテー



術前



術後

## 血管に挿入し血流確保

### 短時間で手術 後遺症軽く



2年間に既に五十人以上をかなり効果があった」と話し、この方法で治療している。大 ている。

「カテーテル治療は救急体制の整備も必要」と話す新谷副院長(右)。左は札幌医大の大滝助手

「カテーテル治療は救急体制の整備も必要」と話す新谷副院長(右)。左は札幌医大の大滝助手

「カテーテル治療は救急体制の整備も必要」と話す新谷副院長(右)。左は札幌医大の大滝助手

## 脳塞栓患者 徐々に増加

脳梗塞は脳出血、くも膜下出血とともに脳卒中の原因となる病気。脳動脈の病気だが、体の別の場所の血管にできた血栓が流れてきて詰まる脳塞栓と、脳の血管が動脈硬化を起して狭くなる脳血栓の二つに分けられる。

脳塞栓は心臓弁膜症や心房細動など、心臓病によってできた血栓で起ることが多い。一方、脳血栓は高血圧や糖尿病、高脂血症といった動脈硬化になりやすい病気を持つ人がかかりやすい。日本では脳血栓の比率が高いと言われているが、心臓病が増え

これらの患者は発症してから二時間以内に医療機関に運ばれた。治療を受けるまでの時間は短ければ短いほど、結果が出てくる。脳塞栓での治療を約二十人手術した小

マイクロカテーテルによる脳梗塞治療前後のエックス線写真。術前の丸印が詰まった部分。治療後は先まで血管が再開通している